

洋書輸入協会会報

VOL. 20

NO. 12

(通巻236号) 昭和61年12月

理事会報告

10月27日(月)

(一) 懇談会

懇談会の日時、場所、テーマについて打合わせ、決定した。(10月28日付けJBIA No. 483を参照)

(二) 調査への回答

公正取引委員会事務局からの「事業者団体実態調査について」への回答案を点検した。

(三) パーガモン社の雑誌

日本向け価格の問題について討議した。

(四) 米国書店の「会報」への広告

「会報」へ広告掲載を要請してきたので討論の結果
①会員外の広告も掲載する②会員と非会員とでは広告料に差をつける③外国からの送金は円小切手による、という方針を定めた。

(五) その他。

11月11日(火)

(一) 10月分収支計算・予算対比表

総務委員会での検討にもとづく松井幸雄氏(丸善)の報告を承認した。

(二) パーガモン社の雑誌

11月5日開催された雑誌委員会の報告が岸恒雄氏(日本出版貿易)からあり、討議の結果、同社へ抗議文を送ることとなった。

(三) 付加価値税

現在問題になっている付加価値税の当業界に及ぼす影響について討論し、理事会としてはこれに反対することで意見が一致した。対策は通関委員会で検討することとなった。

(四) 米国書店の「会報」への広告

会報委員会から前回の理事会でできた三原則のほかに、継続的には掲載しない、という方針が提案され、承認された。

(五) 米国書店の動向

国内での活動状況について情報を集めるが、次回理事会には米国出版社の代表者の参集を求め、協力を求めることとなった。

(六) その他。

講演会報告

『最近の円相場動向と今後の見通し』

講師 三井銀行総合資金部長 城所功次氏

11月11日(火)午後4時より2時間にわたり出版クラブで催された講演会では、円高小休止の中での雑誌代金送金の時期とあって、出席率も高く、今後の対策のために熱心にメモをとっている聴講者の姿が多かった。さすがに

理事会報告…………… 1	お知らせ…………… 2	Book Review No.116 …… 5
講演会報告…………… 1	総代理店ご案内…………… 2	広告…………… 6
文化厚生委員会だより	洋書輸入協会史(15)…………… 3	
72会 第43回ゴルフコンペ…………… 2		

相場の専門家が解説する現場に密着した円情報は迫力があり大変参考になった。講演は、“最近の為替相場の特徴”“昨年のG-5以降の円高暴進の真因”“最近の相場動向”そして最後は“今後の展望”で締め括られたが、解説の内容を通して相場の動きに開眼させられた聴講者も多かったことであろう。

今年前半から値下りを続けた原油価格は円高を呼んだ大きな原因の一つであるが、7月に入って上昇に転じた。ソ連の原油輸出削減を機に国際カルテルの機能を回復したOPECが10月21日に合意に達したため、これらの変動をうけて10月23日に反転円安に移った。また、最近の外国車ディーラーによる大巾値引きと低金利ローン資金の米国流出、国内景気の動向といった状況が徐々に米国の対日貿易収支を改善し、円安をサポートするとみる。日米蔵相会議の結果である公定歩合の引下げ、160円台相場の容認もその要因と考える。

今後の展望として城所氏は、米国の意志、即ちReaganomicsによる米国経済回復、と原油価格の予測から、今年の第4四半期は160～170円で推移し、1987年度は2月末の大統領経済教書と原油価格の動きの予想の上に立って3月には150円台へ反転する可能性があるが、年間を通しては140円～170円で推移するであろうと見る。

送金を有利な条件で行うための指針としては巾が大き過ぎる感を禁じ得ないが、円相場について考える時の重要なポイントを学び得たことは大きな収穫であった。

質疑応答は専ら外国雑誌代金の送金の際、相場を予測する方法の有無といった点に集中していた。最大の関心事であるには違いないが、これこそ経済問題の中でも予測のつきにくい事態の代表といえるのではないだろうか。

(RA 記)

文化厚生委員会だより

72会 第43回ゴルフコンペ

10月23日(木) 於：関越ハイランド G. C.

総勢13名秋晴れの快適なコンペをゲーテ書房村山さんのホームコース関越ハイランドで行いました。キャリアマクラミン後藤明美嬢、ゴールデンブック園山みさぎさん、2人の美人を交えての華やかなプレイでした。

今回はゴルフは飛ばし屋で、女性には優しい大洋交易の和田茂さんが、2位の丸善大野さんに5ストロークも差を付けて堂々の優勝でした。優勝されたご本人の言葉

に依りますと、和田さんの午前中はパートナーの後藤嬢のお尻を見ながら頑張って自己最高記録のハーフ41、午後のハーフは優勝のスピーチを考え乍らプレイしたために54のスコアだったそうです。準優勝の丸善大野さんはショートホールでのティショットがピンの横2センチに止まるスーパーショット。あわやホールインワンの快挙と思われましたが、これを逃したのが尾を引いて2位に終わりました。同伴者も、メンバーも、キャディさんもみんな残念がっていました。大野さんも多分くやしかったと思います。紀伊國屋の尼子さんも1982年以來の参加でしたが、パートナーの園山みさぎさんの期待に応えての3位入賞でした。何はともあれ女性同伴のパーティーが一位と三位、これからも女性の皆さん多数参加して下さい。

成績の方は下記の通りでした。

順位	名前・所属	スコア	ハンデ	ネット	新ハンデ
優勝	和田 茂(大洋交易)	41, 54, 95	22	73	18
2位	大野 俊(丸 善)	43, 47, 90	12	78	11
3位	尼子英二(紀伊國屋)	52, 50, 102	23	79	22

ドラコン 川原(2コ)、大野、尼子 ニアピン 大野(2コ)、後藤、和田 ベスグロ 大野

(S.T. 記)

おしらせ

次の通り移転通知がありましたのでお知らせします。お手もとのダイレクトリーにご記入ください。

エイビス ブック セールズ株式会社

新住所：〒215 川崎市麻生区金程449-96

Tel. (044)951-2360

Fax. (044)966-1332

総代理店ご案内

北尾書籍貿易 (株)

☎(03)573-3031

(06)203-5961

Lea & Febiger, U.S.A

N.C. Jain et al Ed., Schalm's Veterinary Hematology, Fourth Edition¥32,400

洋書輸入協会史 (15)

洋書輸入協会顧問 相良 廣明

18. エロア資金による米国技術文献の輸入

18.1 エロア資金とは

EROA は、占領地域経済復興資金のことであり、Economic Rehabilitation in Occupied Area Fund の略称である。第二次大戦後ガリオアとともに、アメリカが占領地の経済復興のために、その軍事予算から支出した資金である。またエロアは経済の復興と自立を目的としたものでガリオアのように救済的意味を持っていない。対日エロアは、おもに綿花・羊毛などの原料として輸入され、これを政府が国内業者に売却してその円代金を経済復興の資金にあてたもの。昭和22年7月には国会で感謝決議が出され、同時に「阿波丸事件」の請求権を放棄しているので、贈与と思われていたが、昭和36年にその約四分の一を分割返済することになった。(小学館、大日本百科事典より)

18.2 工業図書輸入の陳情書

この協会史の(9)から(10)にかけて、第11項として「洋書輸入再開への努力(昭和21年8月～22年12月)」を記述したが、この中には日本学術振興会から洋書輸入促進の陳情書を出して頂いたり、その後援の下に約1,000名の知識人・読書人の署名を集め、CIEとESSに提出したことなども含めておいた。(協会史(9)の11.4項参照、会報昭和61年6月号、Vol.20 No.6のp.4所載)

以来洋書輸入促進に関し学者の団体との連絡が密であったが、昭和23年6月5日には日本学士会・学術研究会議・外国文献利用委員会の総会が開かれるに際して、これに同業会から下記のような陳情書を提出している。

記

工業図書輸入に就て

戦後我国における洋書輸入の要望は熾烈(しれつ)なるものあり、我々輸入業者と致しましては、終戦以来全力を挙げてこの輸入実現に努力して参りました。即ち関係当局と連絡を取り、貿易庁を経て大学・高専・図書館・研究所等よりの米書注文を取りまとめ、輸入の申請をなす事前後三回、又大学・高専・図書館・研究所の有力者約若干名の署名を得て、連合軍最高司令部経済科学局、民間情報教育部に陳情書を提出、或は昨年11月民主外交

協会と協力、海外出版物輸入促進委員会を組織し、ユネスコ第二回総会に対し洋書輸入の懇請状を提出いたしました。

然るに輸入超過による弗資金不足の現状においては、封鎖円による支拂を条件とする二三の一般雑誌を除き、正規の手続きによる輸入に対しては未だに何等の曙光が認められません。

御承知の通り食糧、輸出原料、食糧増産に必要な肥料等、必需物資は優先的に輸入を許可されて居ります。

本年一月のマックアーサー元帥の米陸軍長官への書簡、或はドレーパー使節団の報告等に依り、我国の生産増強輸出促進は有利に展開しつつある時、工業図書はこの生産復興の原動力であり、工業技術向上の必須不可欠のものであり、いわばこの方面における肥料の役割を果すべきものと信じますが、現在の情勢においては最早輸入業者のみの手においては如何ともなし難き実情でありまして、学術団体各位の強力なる運動により政府当局並に連合軍最高司令部をして之が必要を認識させ、この輸入促進運動を推進するにあらざれば、情勢打開の途はないと信するのであります。

何卒事情御賢察の上、工業図書輸入のため御尽力あらん事を冀願(きがん)する次第であります。

昭和廿三年六月五日 海外出版物輸入同業会
(以上)

(注)仮名遣いは原文のまま、難解な漢字のみは当用漢字または平仮名に置き換えるか振り仮名をつけた。句読点は筆者が適宜補った。

この陳情書は、昭和23年も半ばとなって占領政策にもやや緩和が見られ、食料事情のひっ迫も峠を越したかに思われてきた頃なので、文章にもこれ以前のものとは比べて昂揚感が感ぜられる。

次に何故ここで「工業図書輸入について」と工業に範囲を限定したかということ、勿論各国の全分野の書籍・雑誌の輸入が望ましく、それを促進するのが同業会の建前であるには違いないが、占領下の日本においては当面の経済復興のために工業用図書が緊急に必要とされたこと

と、同じ図書といっても思想信条に関係のない「理工学図書」に分野を限定すると、或いは輸入許可を得易いのではないかという思惑もあったろうと思われる。

18.3 輸入計画の発表

これらの学界への働きかけはその後も継続的に続き、昭和23年の9月25日の理事会でも「学界運動の理工学輸入の件」として取り上げられているが、実際にエロア資金による米書輸入の計画が発表になったのは、昭和24年2月11日のことである。

理工学図書輸入の陳情と、エロア資金とが結びついたいきさつは、石川実氏の洋書こぼれ話（洋書輸入協会会報、昭和45年5月号、p.4所載）によれば、

「日本學術振興會會員の東大理學部瑳峨根博士がGHQ・Technology SectionのKelly氏に相談した所、EROA Fundを利用したら米書輸入が可能であろうとの助言を受け、工業技術庁長官の兼重博士に相談した。その結果同庁傘下の研究所・試験所、その他関係先から希望理工書を募り、CIEに依頼し、その他の関係筋にも協力を頼んでいたのが実を結んだと思われる。」とのことである。

昭和24年2月11日は、通産省からEROA Fundによる輸入計画の発表があり、翌12日の理事会でその報告がなされているが、「実際の輸入については計算中の由」としてこの時点では具体的には未だ何も分っていない。

18.4 輸入準備の諸手続き

3月24日に同業会の懇談会が開催され、その様子が3月26日付、海輸第48号で通知されているが、それには次のように記されている。

記

工業技術庁に依る米国工学書輸入の件

工業技術庁に於てエロア資金に依り米国工学書の輸入を計画中ですが、之は貿易庁で輸入されることになりません。具体的な事は未だ判明していません。輸入額の処理は工業技術庁及び貿易庁で決定されることと思われますので、事務代行希望者は左記へ御申出になるとよいと思います。（以下略）

5月2日には、今少しく具体的なことが判明して、臨時理事会を開き、その結果を5月4日付、海輸第59号で次のように通知している。

記

昭和24年3月26日海輸第48号中にて御案内申上しましたエロア資金による米国工業図書が、近く輸入取扱要領により処理されることになりましたので、其の国内取扱業者を資格認定審査会で決定したいから、希望者は至急申請するよう通知がありました。希望者は添附雛形（ひながた）により本月14日迄に着信するよう左記へ申請書を御提出下さい。

東京都千代田区麴町三年町

工業技術庁調査課長

尚過日貿易公団理事長宛の申請書は、輸入実務代行希望申請として処理される由ですから、既に公団宛申請された方も御手続き下さい。（以上）

そしてこれには、4月13日付の工業技術庁調査課による「外国技術文献輸入に伴う事務処理要領（案）」という詳細な要領が附けられている。これによれば、最終消費者の購入価格は、工業技術庁と貿易庁が物価庁と協議して決めることとなっている。また輸入外国技術文献取扱資格認定審査会が設けられることになっていて、そのメンバーは貿易庁、工業技術庁の局長、部長クラスで構成されている。今から考えると不思議であるが、当時としては当然であったものに、外国技術文献購入キップを発行するという項もある。

このような次第で、エロア資金による技術文献の国内取扱いをしたい者は、同業会の会員でなくても資格条件を満たしていれば何処でも良く、希望者は輸入外国技術文献国内取扱申請書を資格認定審査会宛提出することになっている。しかしそれには、会社の損益計算書を始め、洋書の輸入に従事した経歴説明書その他の文書を添附することになっており、何やら事務の煩雑さを予想させるものがあった。

結局この時申請した業者は、国際書房、米亜貿易株式会社、白木屋、教文館、海外出版貿易株式会社、福本書院、三越、丸善、工業新聞社の9社に及び、多彩な顔触れとなったが、中には資格条件を満たしていない所も含まれていたようである。

18.5 輸入の具体化とその後

昭和24年5月17日に開催された定時総会前の理事会には、工業技術庁から技官も出席し、輸入の実務について

の検討が行われた。

続いて開催された定時総会で、理事会における検討に基づき討議が行われ、その結果は5月18日付、海輸第61号で、定時総会報告として次のように通知されている。

記

工業技術庁による技術書の輸入

予て(かねて)御通知申上しました様に、EROA Fundによる技術書第一回分307type, 3,892copies. \$22,200.(注)が8月頃入荷する事となり、其の実務取扱希望申請者に対して、輸入引取事務及び国内取扱の事務に分けて任されることとなります。前者に対しては取扱希望6社が輪番制により取扱うこととなり、後者に対しては近々工業技術庁が決定することとなりました。

永らく切望して居った米国技術文献が輸入されることは、業者として誠に欣快の至りです。(以上)

書籍は、GHQにより予定通り8月に横浜に入港し、通関を始めとする輸入実務が始まるが、結局丸善以外の5社が辞退したため、丸善一社が代金回収に至るまでの一切の実務を担当した。そして予想された通り、その事務の煩雑さにひどく苦勞させられている。

入荷は、どうも一回限りで終わってしまったようである。というのも情勢が変化して、英・仏国の外交ルートによる輸入の具体化、民間貿易開始が近いという情報などにより、もうこの位で良からうということになったのであろうが、事務の煩雑さに官民共に手を焼いたことも一因であろう。

(注)この時の入荷量は、石川実氏の洋書こぼれ話によれば、2,754冊、307タイトル、総額\$14,046.41と、規模が3分の2に縮小している。(続く)

Book Review No.116

「ペーパーバック入門」

枝川公一著

講談社現代新書 480円 昭和61年2月刊

極論する人の中には、ペーパーバックは書物のうちに入らない、という人がいる。ましてやマスマーケットペーパーバックなど論外であると。

もっともペーパーバックには大別して二通りある。ハードカバー出版社が、主に書店を通じて、個人客向に出版するペーパーバック(通常トレーディングペーパーバックと呼ばれるもの)と、マスマーケットペーパーバックである。この本の言うペーパーバックは、もちろん、近年ますます需要の高まっているマスマーケットペーパーバックの事である。

さて、人によっては、今だにまともに書物の仲間に入らないペーパーバックだが、現代人の読書とはもう完全に切りはなせないものになってしまっている。その現実を見据えて、日本へも近年かなりの量が入り、かなりの量が読まれる様になり、特に若い層に最近ますます語学学習の意味もあって人気の高いペーパーバックを、その発祥から、その魅力、楽しみ方に至るまで、著者の経験も通じてまとめたものがこの本と言えよう。

1935年英国のPenguinで始ったペーパーバックは、

すぐ米国に渡り、1939年のPocket Booksの設立後、Avon, Dell, Bantam, NAL, Ballantine等々と次々に有力なペーパーバック出版社が現れ、ついに米国のペーパーバックは、1960年、ハードカバーの売上を超越してしまった。この化け物の魅力に取りつかれた著者が少しでも同じペーパーバック麻薬患者を増やそうとしてまとめた内容は、

- 1)ペーパーバックに出会うまで。2)ペーパーバックのミニ歴史。3)ペーパーバックを見る・触る。
- 4)まず何から読むか。5)こんなふうに読んでみたら。6)ペーパーバックの買い方・探し方。7)〈ガイド〉ペーパーバックの作家たち。あとがき、索引、

である。バラバラとめくって、面白そうな所を、どこから読んでも一向にさしつかえない様になっている。最後に、ペーパーバックの買い方を書いた所に「洋書店めぐり」という一文があるが、丸善とイエナの両店のみ実名で紹介されているのがいささか不満の残る所である。(SSD. S. N.)

全ての図書館に心備！世界最新の原色版総合百科

20世紀の掉尾を飾るフランス最高の大百科辞典

ラルース大百科辞典

フランス語版、小項目式「語学・百科両用大辞典」の最新版

1982年発刊～1985年9月完結（普及版・全10巻／上製版・全15巻）

GRAND DICTIONNAIRE ENCYCLOPEDIQUE

LAROUSSE (略称“^{ジェデウエル}GDEL”)

(Larousse) - FR -

1986年度正価：普及版¥210,000 / 上製版¥240,000

☆1980年代も後半に入った現代の要求に、正に応える最新版の大百科。それが当「ラルース大百科辞典」です。

☆フランス語版の大百科として最高の内容を備え、しかも、収録情報と解説は他のいかなる言語の百科辞典よりも新しく、1984年の文献にも言及しています。

☆日頃、フランス語文献を精読される方、フランス語を日常使用される方、そしてこれからフランス語を深く学ばれる方等の全てにお奨め致します。

☆今年も、版元提供の「地図」一巻サービスの特典があります。



(写真は普及版・全10巻です。)



日本総代理店
株式会社 紀伊國屋書店

「内容案内」ご希望の方は、官製はがきに住所・郵便番号・氏名・年齢・電話・勤務先、をご記入の上、弊社仕入開発部ラルース係宛、お申し込み願います。

仕入開発部：〒156 東京都世田谷区梅丘5-38-1

☎03(439)0161

昭和61年12月 通巻第236号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル612号室 ☎271-6901

☎530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第1山中ビル ☎371-5329